



Searchlight

【一般社団法人日本RPF工業会 第7回定時社員総会】開催



令和元年六月二十日 明治期記念会館にて一般社団法人日本RPF工業会第7回定時社員総会が開催されました。会員総数107社(内訳;正会員61/賛助会員46)正会員45社出席、委任状による出席16社で全ての議事について滞りなく承認されました。

開会の挨拶

会長 長田 和志

本日は皆様におかれましては、何かと、ご多忙のところ本総会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、日頃から、工業会の事業活動には、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、皆さんご承知の通り、私たちの事業を取り巻く社会環境が、猛スピードで変化しています。それは、廃プラスチックに起因する国際社会における諸問題の解決が急を要しているということです。

パリ協定に基づく「地球温暖化対策」そして、「海洋汚染プラスチック対策」の早期実施が求められております。

世界がこれらの問題に対処することにより、中国や東南アジア諸国において廃プラスチック資源の輸入が禁止され、バーゼル条約では「汚れたプラスチック」も規制対象になりました。

日本政府は「プラスチック資源循環戦略」を作成し、3R(リユース、リデュース、リサイクル)プラス、「植物由来など再生可能資源への代替え」や「途上国への技術ノウハウの支援」などが盛り込まれています。

もちろん、リサイクルでは、「技術的経済的な観点等から、他のリサイクルが難しい場合」にとはつきましたが、我が日本国のリサイクル率確保にはなくてはならない、「熱回収によるエネルギー利用」も含まれています。

その件について、日本化学工業協会の「海洋プラスチック問題対応協議会」が発表された報告書では、RPFによる、エネルギー回収が「廃プラ利用の環境負荷の削減」に最も有効と報告されました。

私たちは、リサイクル手法の議論もありますが、足元、国内にあふれる廃プラスチックを少しでも多く、再資源化できるよう努めなければなりません。

このような背景を踏まえ、当工業会といたしましては、まず、現在、進めている JIS 規格の普及に加え、環境省と取り組んでいます、ISO 化を実現し、廃棄物燃料 RPF の販売促進・用途開発に取り組んでまいります。

そして、技術の向上や継承のための人材教育にも取り組んでまいります。

外国人研修生も含め、人材教育こそが、迫りくる少子高齢社会での人手不足解消の解決策と考えています。

また、海洋プラスチック汚染のワースト国である、東南アジアへの廃棄物の回収、分別、再資源化の技術・ノウハウの提供や人材育成、インフラの導入支援などを行い、その国々においてのリサイクルシステムの構築に寄与してまいります。

各委員会の皆さんには、大変負担をおかけしておりますが、いつやるか、それは今がやるべきであり、チャンスの時と考えています。

ご苦勞をおかけいたしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

そして、会員の皆様には、本日提案しております各議案の審議がスムーズにいきますよう、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、本年は、皇位継承され、令和の時代がスタートいたしました。

私はプラスチックイノベーション元年ともいえる年ではないかと思えます。その新しい時代にふさわしい、活動にいそしみ、「サーキュラーエコノミー」の実現の一助となるよう努力いたす所存です。

本工業会並びに本業界、また会員各位の躍進を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

本日のご審議、何卒よろしくお願い申し上げます。

第1号議案；平成30年度活動報告が事務局長並びに各部会委員長より報告され承認されました。

第2号議案；平成30年度決算報告が事務局長より報告され、揚張監事より監査報告が行なわれ、承認されました。

第3号議案；令和元年度事業計画案が各部会委員長から報告され承認されました。

・**技術品質委員会**から9月5，6日福井県の株式会社マルサン・アイ様のRPF専焼ボイラーと芦原温泉バイオマスボイラーの見学、翌日は株式会社エコ・クリーン様のRPF製造施設見学。

11月勉強会ではみずほ総研の山本麻紗子を講師にお呼びして【SDG'sプラス海洋プラスチックのビジネスチャンス】と題して講演を予定しています。

・**総務広報委員会**からは季刊誌サーチライトの発行、10月10，11日に行われえる【ホーチミンものづくり商談会】の参加、会員企業様へのご案内も行なう。

・**安全衛生委員会**からは年数回の委員会会合、安全パトロール、11月安全大会開催を予定しています。

第4号議案；令和元年度予算案が承認されました。

全ての議案を審議し滞りなく承認されました。

【外国人技能実習生の業種認定の進捗】

昨年度より行なっております外国人技能実習制度の業種認定に係わる進捗状況を三輪委員長より説明がありました。

2月下旬に厚生労働省に認定申請書を提出し受理されました。その後所管の環境省、経産省にご指導いただきながら、厚生労働省の有識者会議でプレゼンを行なう運びとなっております。平行して実技試験のデモンストレーションを株式会社日本ウエスト様で8月頃に行なう予定です。早急に認定取得を目途しておりますが有識者会議の開催が他業種と同時に行なう関係から実施日が未定となっております。

【用途開発委員会の発足】

岡委員長より本年度より用途開発委員会の発足に当たり、RPFを取り巻く外部環境の劇的な変化の中で注目度が増しております。新たな市場、用途と質の良い情報提供を行い、全社員が結束して進めて参りたい。今後、委員の選出に当たり皆様の協力を仰いでいきますのでご協力をお願い致します。

【遠藤洋一氏紹介】

4月より外国人技能実習制度の統括者として元JQAの遠藤洋一氏をお迎えしています。遠藤様にはJIS認証取得のアドバイス業務も行なっておりますのでご相談が必要な方は事務局までご連絡下さい。

【環境省・経産省から要望】

昨年9月よりJIS認定品のRPFについてはバーゼル条約の除外を行なっており、4月29日から行われたバーゼル条約の改定においてもJIS認定のRPFの除外を認めているので早く実績を作ってほしい。と要請がありました。輸出案件がある場合は事務局にご連絡下さい。（石谷）

閉会の挨拶

加藤副会長

第7回社員総会が皆様のご協力下スムーズ執り行えたことに感謝いたします。

廃プラスチックを取り巻く環境の変化は激しく私たちにとってフォローの風が吹いているように感じますが私はアゲインストではないかと感じます。

原料はありRPF生産を増やしても用途無ければ、価格は下がり品質要求は厳しくなります。

より一層の品質向上が大事であります。又、新たに発足して用途はいつ委員会は工業会にとって非常に大事な委員会になる。皆様からも色々なヒントをお聞かせいただき新たな需要を創出して行きましょう。

そして会長を中心に政治的活動も行い、RPF使用するボイラーに補助金をつけていただけるように推進して行きたい。皆様のご協力をお願い致します。

続きまして、トレーナーズスクエア株式会社代表取締役社長 岩崎由純氏をお迎えして

【やる気を引き出す魔法の言葉】

基調講演が行なわれました。

ペップトークを通じた上司と部下への信頼構築をどのような考え方に基づいて行なうべきかを具体的な事例やジョークを交えてわかりやすく興味深く講演して戴きました。

会場では笑いあり、涙あり、メモを取られる方もいらっしゃり大変好評な講演となりました。

岩崎様にはその後の懇親会にも参加して頂き多く参加者と楽しく談笑されていました。

誠にありがとうございました。



【懇親会】

午後17時より多数のご来賓の方々のご参加を頂き盛会に行なうことができました。

長田会長から懇親会開催にあたり開会の挨拶があり、総会の審議が無事承認されたことの報告とプラスチック問題解決に工業会の取り組み内容と会員企業の躍進を述べられました。



ご来賓方々よりの御挨拶を頂戴しました

昨年に引き続き**第74代衆議院議長伊吹文明先生**の御挨拶を頂戴いたしました。

戦中の大変貧しい時代から戦後の高度経済発展を通じて人々の暮らしは豊かになりました。それと反して面倒なことはお金で解決すれば良いとの人間の業が強くなり便利な暮らしのために使い捨ての文化が今の廃棄物問題を引き起こしています。このまま自然資源を使い続けることは難しく、消費者の生活スタイルも考え直す時期に来了。皆様には国民の日常生活のために頑張ってください。(要約)

続きまして**自民党筆頭副幹事長**であります**稲田朋美先生**より御挨拶を頂戴いたしました。只今、伊吹先生より大変含蓄のあるお言葉があり、日本人の生き方を見直す時期なのかと感じさせられました。

2月には長田会長を初め理事のか方々と事務所に環境省、経産省、資源エネルギー庁の方々とRPFの勉強会を開催いたしました。

世界はプラスチック問題を抱え、色々な技術開発の元、一日で自然に返る包装材が開発されたりとプラスチックイノベーション元年であります。しかし、既にあるプラスチックを燃料として循環型社会を作る世界の課題を解決する技術を輸出し、普及していく取り組みをしていく、正しくクールジャパンではないでしょうか。まだまだ課題はありますが皆様と一緒に頑張って解決していきましょう。(要約)



当会顧問で、**自民党資源エネルギー戦略調査委員会会長山本拓先生**より御挨拶を戴きました。



令和元年初の総会を開催しました。平成時代に工業会が発足して令和に入り、ホップステップジャンプではなく行き成りジャンプしなくなりました。便利なプラスチック製品は直ぐにはなくなりません。プラスチックをどのように回収するかが課題ですのでポイントカード制度導入したりと工夫していき、集まったプラスチックの出口はRPF工業会に任してくださいと進めてほしい。(要約)

ご来賓の方々のご紹介の後にご祝辞を頂戴いたしました。

初めに経済産業省資源エネルギー庁新エネルギー課 課長山崎琢矢様

第5回から今回で3回目のご祝辞を頂いております。主に新エネルギー固定買取制度をご担当され、RPFについてもバイオマス分については引き続き買取を実施しています。

FIT制度の改訂の検討に入っているが期待に背くような制度改正は考えていない。

引き続き工業会と連携としていきたい。(要約)



経済産業省資源エネルギー庁電源基盤整備課課長 曳野 潔様

石炭火力発電所の副生物としてRPFを使用すると省エネ加点がされます。今後も廃プラスチックの問題解決のために熱回収を含める循環利用や化石燃料を効率的に利用する観点からRPFの有効的な方法を検討していきたい。

プラントメーカー、発電事業者、工業会との勉強会等を行なっています。今後ご意見、要望を出して頂き一緒に考えて行きたい(要約)

環境省 環境再生・資源循環局 総務課課長 土居 健太郎様

日頃より環境行政にご協力ありがとうございます。欧州を中心に循環経済の推進のなかRPFを含む廃棄物で作った燃料の国際標準化を目指しており、国内に審議委員会を立上げ工業会もメンバーになってもらっています。国際標準化が叶えば国内はもとより世界に展開できるよう関係省庁とも連携し進めて参ります(要約)



環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物規制課



課長 成田 浩司様

廃プラスチック問題解決の問題解決にRPFの循環利用を促進するためバーゼル条約対象物から除外した。又外国人技能実習制度の業種認定の早期実現に向け、関係省庁と連携し進めていき人材不足解消に留まらず環境技術の移転につなげ関係国の環境問題解決とRPFの普及が進むことを願います(要約)

乾杯のご発声を日本製紙連合会理事長 羽山正孝様より戴きました。

R P Fの主要な利用先である製紙業界はグラフィック系製品の需要が落ち込む中R P Fの使用量は17年度実績で93万トン使用し前年より1万トン強増えています。プラスチック問題



紙の資源としてのよさをアピールして行きたい。セルロースは生分解性でありリニューアブルな素材から出来ている。リサイクルできる特性からR P Fもこれからの循環経済の中でリサイクルできる素材であることを色々な業界が手を携えてアピールして行きたい。R P F工業会の益々の発展と会員企業様のご隆盛とここにお集まりの皆様のご多幸を祈念いたしまして杯を上げたいと思います。乾杯

<歓談の様子>



<歓談の様子>



中締めを副会長の海田周次様により一本締めで無事懇親会は終了いたしました。



年々総会・懇親会への参加者も増え会場は少し狭いくらいでした。

来年はもう少し広い会場を用意いたします。

出席された方々からは工業会の担う役割の重要性と期待が伺えました。

気候変動対策の化石燃料使用量の削減、海洋プラスチック・マイクロプラスチック問題への対策として外国人技能実習制度の認定と国内滞留による不法投棄の懸

念、課題は山積みです。会長のあいさつにもありましたが令和が始まりこれらの課題に変革が必要な時代となり、正しく「プラスチックイノベーション元年」の総会になりました。